
ア) 観光WG検討結果

1 EV等の導入による目標

- 観光WGでは、環境問題への対応と観光の活性化を目標として、EV等の活用を図ることとする。
- 平成23年において伊勢市では外宮と内宮を併せて800万人近い参拝客があるが、その6割が自家用車で訪れている。また、休日の内宮周辺をはじめ、交通渋滞が大きな課題となっている。そのため、公共交通の利用を促進し、地域の低炭素化を進めていくことが必要である。
- 平成25年式年遷宮には、観光客の飛躍的な増加が期待される一方で、翌年の観光客の減少を抑える必要があり、新しいEV等というモビリティを歴史ある町に走らせることで、新たな観光の魅力づくりに活用することが重要である。また、伊勢観光の課題解消のためにEV等の導入を考える必要もあり、現在、内宮のみしか参拝しない観光客に対して両宮をまわる正式な参拝を誘導する、神宮以外の観光スポットへの回遊を促す、市内のホテル・旅館の宿泊客を増加させる等により、伊勢市での観光滞留時間を増やしていく。
- これらを踏まえ、EV等導入については、概ね10年後の中長期的な目標を掲げるとともに、式年遷宮をPRの好機ととらえた短期的な目標を設定する。

EV等導入の目標

	中長期	短期
環境	旅行者等が排出するCO2の削減	休日等における交通渋滞の解消 (公共交通の利用促進)
観光	式年遷宮後の観光の目玉づくり 観光周遊による市内滞在時間の長時間化	<式年遷宮インパクトの活用> 外宮参拝の促進 神宮以外の観光・交流を誘導
EV等	市内各所を多様なEV等が走行 EV等で訪れやすい観光地として伊勢市が定着 伊勢市への一般自動車の流入を抑制	EV等を利用して市内各所への観光が可能 EV等が伊勢市の新しい観光の魅力として認知 EV等で観光すると得する気運醸成

2 EV等観光プランの基本方針

1) 3つのアクセス手段に対応したEV等の利用方を講じる

- 観光客による伊勢市へのアクセス手段としては、「公共交通」「ガソリン車」「EV等」の3つがあり、それぞれに対応したEV等の利用を進めていく。
- 伊勢市では交通渋滞の解消が喫緊の課題となっていることから、短期的には「公共交通」で訪れる観光客が伊勢市でEV等により乗り換えて移動できる仕組みをつくることで、アクセス手段として自家用車を利用する割合を減らしていく。
- また、「ガソリン車」で訪れた観光客がEV等により乗り換えることは交通渋滞の削減に繋がらないが、温室効果ガス排出量の削減に寄与するとともに、EV等のまちづくりを進めているまちであること周知できることから、シンボリックな活動として推進する。
- 「EV等」で伊勢市を訪れるには、現状、高速道路等における充電スポットが十分に整備されているとは言えない。そのため、関係機関に充電スポットの整備を要請しつつ、EV等の利用者に便利でメリットの多い観光地を形成し、積極的に誘客を進める。このことで、伊勢市を走行するEV等を増やし、市民にとってEV等が身近なモビリティとなるような気運の醸成を図る。

伊勢市へのアクセス手段	EV等の利用方法	ねらい
公共交通	<ul style="list-style-type: none">● 鉄道駅で鉄道からEV等により乗り換えてもらう	<ul style="list-style-type: none">● 公共交通で伊勢市を訪れた観光客に対して、円滑な市内観光を実現する手段としてEV等を活用する
ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">● 伊勢市でガソリン車からEV等により乗り換えてもらう	<ul style="list-style-type: none">● 温室効果ガス排出量の削減と伊勢市が環境対策に力を入れていることを周知する手段としてEV等を活用する
EV等	<ul style="list-style-type: none">● EV等で伊勢市を訪れ、自由に移動してもらう	<ul style="list-style-type: none">● 市内を走行するEV等を増やすことで、一般的なモビリティとして地域にEV等を定着させるために活用する

2) 3つの拠点によりEV等を見て、体験する場を作る

- 伊勢市を訪れた観光客は、「外宮・伊勢市駅」「小俣」「安土桃山文化村」の3つの拠点でEV等を実際に見て、乗車することで、新たな観光の魅力として楽しんでもらう。
- 「外宮・伊勢市駅」では、鉄道を利用して伊勢市を訪れた人が、EV等へ乗り換え、観光する拠点となる。単なる乗り換えの場であるだけでなく、EV等を電源として加温したおしぼりを提供する等、おもてなしに活用することで、EV等に親んでもらう。
- 「小俣」は、県外からの観光客が伊勢市を訪れる際の玄関口であり、江戸時代に馬を預けて参拝した返馬所の風習があったことから、これを現代のモビリティに置き換え「へんば大作戦」と名付け、ガソリン車からEV等へ乗り換えて観光してもらおう。
- 時代劇テーマパークである「安土桃山文化村」では、公道外という特性を生かし、それとは対照的な未来のモビリティを走行させ、アトラクションの1つとして楽しんでもらう。

拠点	EV等の利用方法
外宮・伊勢市駅	<ul style="list-style-type: none">● 鉄道からEV等への乗り換え拠点(バス、タクシー、レンタカー、カーシェアリング、レンタサイクル等)● 車両を展示するとともに、EV等の利用方法の実演を通じて紹介し、広く知ってもらうショーケース
小俣	<ul style="list-style-type: none">● ガソリン車からEV等への乗り換え拠点● 伊勢市がEV等の普及に積極的であることをシンボリックに見せる場
安土桃山文化村	<ul style="list-style-type: none">● 未来のモビリティを見せる拠点● 公道外という特性を生かし、公道走行の未認可EV等を展示・走行させる実験場

3) 3大観光拠点間の移動にEV等を活用する

- 伊勢市の3大観光拠点である「内宮・おはらい町」「外宮」「二見」については、CANバスをはじめとしたバスネットワークが集中しているとともに、タクシーの利用頻度の最も高い区間となっている。
- バスやタクシーにEV等を導入することで、乗車すること自体が観光目的となり、鉄道で伊勢市を訪れるきっかけを作るとともに、環境負荷の少ないモーダルシフトを推進していく。
- また、「二見」は、伊勢自動車道および伊勢・二見・鳥羽ラインによるアクセス利便性が高いため、急速充電器を整備することで県外から自家用EV等で伊勢市を訪れる観光客のアクセスゲートにするとともに、二見で禊ぎをして、外宮と内宮を参拝する観光ルートに誘導する。

4) 市内各所をEV等で周遊できる利用環境を整備する

- 伊勢市には、河崎や古市など、観光価値の高い資源が数多く点在しているが、公共交通によるアクセスに乏しい。
- EV等によるレンタカーやカーシェアリング、レンタサイクル等を整備するとともに、EV等の利用者にこうした観光資源の情報を提供することで、3大観光拠点以外への周遊を促していく。

5) EV等を活用し、観光資源に新たな価値を創出する

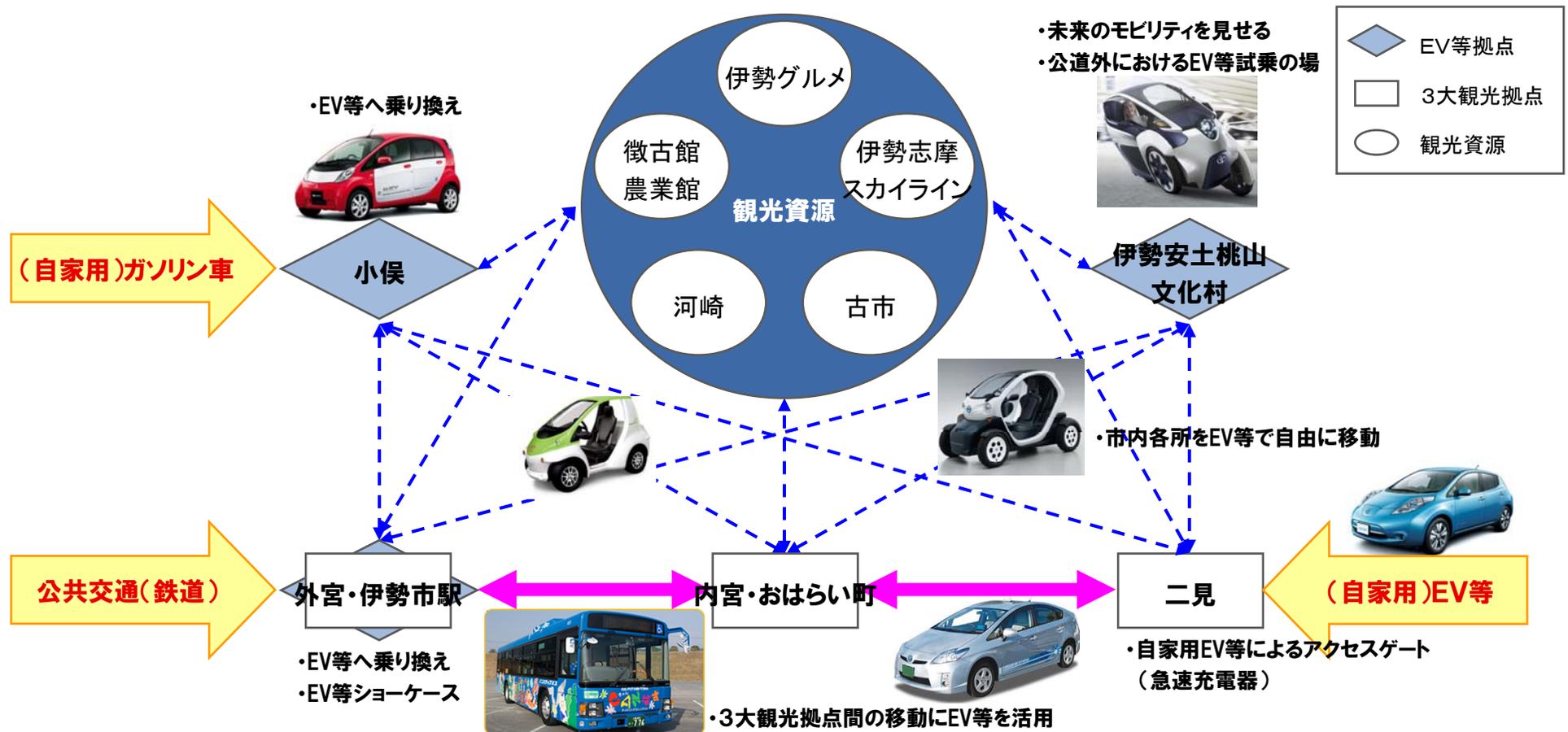
- 宿泊とEV等貸出の観光パッケージ商品をつくり、伊勢市のホテル・旅館に宿泊する新たな魅力をつくっていく。
- 観光施設や飲食店・土産店において、EV等の利用者限定の特典(料金割引、粗品進呈)や優先駐車場等を用意することで、EV等を利用すると便利でお得というイメージをつくり、EV等の普及と観光客増加による地域活性化を図っていく。

6) 様々な利用形態を可能とするEV等を導入する

- レンタカー、カーシェアリング、バス、タクシー、テーマパークのアトラクション、ホテル・旅館の送迎車等、あらゆる用途でEV等を導入し、観光客が様々な観光の場面で、それぞれの目的や志向にあったEV等を利用できる環境をつくっていく。

3 伊勢市におけるEV等の展開イメージ

- 公共交通で訪れる観光客は伊勢市駅、自家用ガソリン車は小俣、自家用EV等は二見が伊勢市へのアクセスポイントとなる。伊勢市駅や小俣では、そこでEV等に乗り換えし、二見では充電を行い、そこから3大観光拠点や市内各所の観光資源を周遊してもらう。また、EV等の拠点となる外宮・伊勢市駅、小俣、安土桃山文化村では、観光客が実際にEV等を見て、体験してもらう。



4 基本方針に対応した各者の役割分担

三重県 伊勢県民センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 国との調整、情報収集 ● EV等の普及促進への協力 ● 施策展開等に関する市への協力 	レンタカー事業者 駐車場事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● レンタカー車両におけるEV等導入 ● カーシェアリング事業の実施
伊勢市	<ul style="list-style-type: none"> ● EV等を観光に活用する取り組みの検討・事業化支援 ● EV等の普及促進 ● PR実施 	観光施設 小売店・飲食店	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者特典の提供 ● PR実施 ● 試乗イベント等の場所提供(安土桃山文化村)
商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ● EV等の普及促進 ● PR実施 	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者特典の提供 ● 旅館組合全体での事業化展開
観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ● EV等を活用したモデル観光の検討 ● 観光促進のためのコンテンツ・グッズの作成 ● PR実施 	旅行代理店	<ul style="list-style-type: none"> ● EV等を活用した着地型観光商品の企画・販売 ● 観光促進のためのコンテンツ・グッズの作成 ● 宿泊施設等に対するEV等の導入支援
鉄道事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● PR実施 	自動車メーカー 自動車販売店	<ul style="list-style-type: none"> ● 他地域事例の情報提供 ● EV等の供給
バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● バス車両におけるEV等導入検討 	充電器メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ● 充電器の供給
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● タクシー車両におけるEV等導入 		

6 短期での実施を目指す事業

- 今後3年間程度を想定し、以下のような事業の実現を目指し、様々な事業が展開され、多様なEV等が市内各所を走行する地域を目指す。

拠点	EV等の利用方法
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年度に1台導入する ● 事業採算性が懸念されるため、EV等のタクシーの利用動向をデータ整理し、導入効果を検証する ● 優先駐車場をはじめとする事業者と利用者双方へのインセンティブを検討する
バス	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成26年度の導入に向けた検討を開始する ● 購入費(車両および充電設備)と1回充電あたり走行距離に課題があるため、国の補助金等を効果的に活用する
カーシェアリング (超小型モビリティ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国土交通省「超小型モビリティの導入促進」予算を活用し、平成25年度に事業を開始する ● 河崎や古市等の公共交通アクセスの弱い観光資源や内宮・外宮周辺以外の飲食店等へ観光客の誘導を促す
カーシェアリング	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場事業者が保有する時間貸駐車場に充電設備を導入し、併せてEV等によるカーシェアリング事業の実施を検討する ● 現在、市内に時間貸駐車場は殆どなく、事業実施可能な用地確保が課題となる
レンタサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ● 電動アシスト付き自転車によるレンタサイクル事業を実施する ● 超小型モビリティによるカーシェアリング事業と並行した事業実施の可能性を検討する

7 リーディングプロジェクト：超小型モビリティによるカーシェアリング

概要

- 式年遷宮により全国的な注目を集める平成25年度において、EV等を利用したプロジェクトを実施することは、情報発信に非常に効果的である。そのため、国土交通省「超小型モビリティの導入促進」予算を活用し、効果的にEVを普及させる。
- 具体的には、超小型モビリティによるカーシェアリング事業を実施することで、3大観光拠点はもとより、公共交通アクセス利便性の低い観光資源への回遊を促す。
- 市内の道路については狭小なところが多く、また、近年増加している個人旅行の移動ニーズにも合致しているため、超小型モビリティの観光活用に適している。

当初の事業イメージ

- 車両：トヨタ車体制「COMS(1人乗り)」、日産自動車製「NNMC」等（複数種の車両導入を検討）
- 導入車両数：10台程度
- 貸出ステーション：伊勢市駅、二見(旅館地域)の2か所
- 利用方法：観光ルートを設定せず、利用者は貸出ステーションから自由に観光し、もとの場所に返却する
- 充電スポット：貸出ステーションのみとし、利用途中の充電を想定しない
- 駐車場：一般駐車場を利用(専用駐車場を設置し誘客することについては任意)
- 貸出方法：認証システムを持つカードキーを利用者に渡す
- 事業主体：伊勢市(もしくは伊勢商工会議所)を事務局とした運営協議会(新設)



検討事項

- 運営協議会の新規設立
 - 事業運営: 車両製造・販売者、充電器製造・販売車、旅行代理店、鉄道事業者、ホテル・旅館、観光協会、行政等
 - 事業協力: 観光施設、小売店・飲食店、広告主等
- 貸出ステーションの確保
- WEB等を活用した利用予約方法
- 旅行代理店を予約窓口として、宿泊＋シェアリング、鉄道切符＋シェアリングによる旅行商品の企画・販売
- カーナビやスマートフォン等、ICTを活用した観光情報の提供
- 観光施設や小売店・飲食店等によるカーシェアリング利用者限定サービスの提供
- 安全に観光してもらうための推奨ルート(通行を制限する道路の選定)
- 事業広報
- 事業収支計画
- 電動機付き自転車によるレンタサイクル事業等の並行実施検討 等

観光ルートイメージ



スケジュール

